

平成 29 年度集大成

卒業研究・ゼミナール成果発表会、

ケアスタディ発表会 を開催

専門学校静岡電子情報カレッジ
静岡福祉医療専門学校
校長 中村 徹

文化祭

福祉医療：卒業研究・ケアスタディ発表会平成 30 年 2 月 23 日

電子情報：卒業研究・ゼミナール成果発表会 2 月 24 日

展示会 2 月 24・25 日

ケアスタディ科内発表会

静岡福祉医療専門学校 2 年介護福祉学科 平成 30 年 2 月 20 日

2 年総合福祉学科 2 月 21 日

卒業研究・ゼミ成果学科内発表会

専門学校静岡電子情報カレッジ 全学科 平成 30 年 2 月 8 日

静岡福祉医療専門学校 2 年医療情報秘書科 平成 29 年 12 月 7 日

3 年子ども心理学科 平成 30 年 2 月 9 日

保育園キッズハウスひかり生活発表会「ひかりの日」

平成 30 年 2 月 24 日

開校 31 年の平成 29 年度職業実践専門課程学びの集大成、ここから 30 年度に向けての教育インフラ構築につなげる。

《卒業研究、ケアスタディ発表会—コンセプト》

社会にアプローチできる研究テーマへチャレンジし、そのプロセス、プレゼンテーションを通じて自己のスキルアップを図る。

1. 時代に即した、将来に向けた研究テーマであること
2. 修得した専門知識と技術の集大成であること
3. 「コラボレイト」により、関連知識の幅を広げ、汎用性・応用性を身につけること
⇒「付加価値」・「高付加価値」に繋げる
4. グループ研究であること—グループ内のインターフェイス(ケアスタディ発表会は個人)
5. 「プレゼンテーション」、「コミュニケーション」、「ドキュメント」等の技法をマスターし、アピールする手法を身につけること

6. 「企画書」、「スケジュール進捗状況管理表」等を作成し、与えられた時間内で完成する計画的な研究を目指すこと
7. 「100%の完成度」にもっていくこと
8. 「実証実験」による研究発表とすること
9. 発表の際には、資料を読むのではなく、自分のプレゼンをすること
10. プレゼンの中に、「研究の中で一番試行錯誤した点」や「それが将来どのような分野で、どういう形で役立っていくか」をマトメの中にも含み、可能なら「継続研究」につなげること

卒業研究・ゼミ成果・ケアスタディ発表会を振り返る

発表会においては、各校、各学科、各コースの特性を大いに活かし、「時代に即した、将来に向けた研究テーマ」が設定され、研究に携わった一人ひとりの個性と知識・見識を集結し、試行錯誤の中からプレゼンの完成度を高めました。この研究を通して、クリエイティブな精神をより培い、まさに「建学の精神」の具現化を図っている。最終公開プレゼンでは、「産学連携教育プログラム・インターンシップ」や「臨地実習・ボランティア活動」、「卒業研究指導」等でお世話になった最先端 IT 業界人や介護福祉・幼児教育・保育指導者、学校近隣の方々等の前で堂々とプレゼンテーションし、プロの方々から高い評価をいただいた。この機会は、今後益々高度化する現代社会で、皆さんに求められるものを創造する難しさを痛感し、自らの力を見つめ直し、社会に一步を踏み出す大きな「自信」につながる大変有意義な機会となったはずだ。

電子では完成度の高い研究内容であり、制作プロセスやターゲット設定がよくでき、コンテンツとの整合性も高く、プレゼンもポイントを押え、「付加価値」創造につながる研究発表がなされた。

そのような中でも、1 年生の成果発表が内容は勿論、発表態度といい次年度に期待を持たせてくれるようなプレゼンで、来年度が楽しみです。

また、福祉では各学科ともそれぞれの職業観がよく表現され、来賓も教職員も「若い感性」による上達したプレゼンに称賛の拍手を送った。

残してくれたみんなの集大成は、本学の財産である！！

この成果は次年度に継承され、今年度以上の大きな成果を期待するところだ。

特に、電子の「産学連携プログラム」や「コラボによる付加価値創造につながるレベルの研究」、福祉においては「地域に開かれた専門学校」に基づく「ボランティア：地域活動」等の後輩への継承を強く期待する。

「緊張」と「失敗」は成長への「肥やし」である！

今後も研鑽重ね、「自信」と「誇り」を持ち、社会に船出し、「スペシャリスト」としての道を切り拓いていただきたい。

我々を取り巻く社会的背景

経済面においては、平成 30 年に入り外国為替相場円安ドル高 1\$=110 円、日経平均株価 2 万 4 千円をつけるが、3 月 8 日現在 106 円、2 万 1 千円と順調な景気回復傾向とは言い難いが、企業は経常利益を順調に伸ばし、求人倍率も向上、労働市場は売り手市場で一部には深刻な人手不足が発生している。しかしながら、社会全体を見渡してみると生活様式、働き方、経済構造あらゆる面において、大きな変化をもたらす状況が進展している。超少子・高齢化、人口減少、地方の衰退である。また、第 4 次産業革命とも言われる IT とインターネットの発達による Iot、ビックデータを基にデータプレーニング機能を備えた AI 人工知能時代が到来。今やビジネスは単にモノを造って販売することから、ビックデータを利用して「モノと人を結びつけるサービス」を売る、それが地球規模で展開される時代になってきた。

一方、わが静岡県では全体としては緩やかな回復基調が続いているが、景気回復の実感は乏しい状況にあり、人口減少の加速化に伴い、あらゆる業種で人手不足が深刻化し、地域社会の生活や文化を持続的かつ発展的に維持することが困難になりつつあり、それを克服するためには、地域の人材を確保し、育成することが、喫緊の課題となっている。

ゆえに、「キャリア教育・職業教育」の重要性が注目され、とりわけ、職業に直結し、地域に密着する専門学校の役割が、“職業実践的な教育に特化した枠組み”して平成 25 年から「職業実践専門課程」の認定制度が創設され、本学も平成 26 年文部科学大臣認定校となった。

また、「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化」について、「専門職大学・短期大学」を平成 31 年 4 月 1 日の開学に向け制度化された。

本学もこのような動きに対応し、地域の業界等との連携を強化しながら、地域社会を支える職業的人材を育成する中核的職業教育機関としての自負を持って、社会の期待に応えていく。

平成29年度

卒業研究・ゼミナール成果発表会・

ケアスタディ発表会を終えて

教頭・教育部長 有賀 浩

<電子情報

企業対象卒業研究・ゼミナール活動発表会>

2月24日(土)

○発表会御参加講師(順不同)

- ・SSBソリューション株式会社 専務取締役
(本学学校関係者評価委員) 池谷 和彦 様
- ・株式会社システムソフィア 管理部長
(本学教育課程編成委員) 五十嵐 卓 様
- ・オフィスアスタノ 代表
(本学非常勤講師) 木野 正弥 様
- ・株式会社サンロフト モバイル・セキュリティ事業部 主任
(本学卒業生) 藁科 佳晃 様
- ・モノリズム合同会社 代表
(本学教育課程編成委員・卒業生・非常勤講師) 菅原 範裕 様
- ・バックル 代表 (3DCG、映像制作)
(本学卒業生・非常勤講師) 落合 布暁 様

○発表テーマと学生メンバー

<1> 「3Dプリンタを駆使したアーム型ロボットの開発」

(プロゼミ成果発表)

小長谷 統威、外山 浩介、福地 雄太(ロボット創造学科1年)

<2> 「産学連携によるTV CM制作」 (プロゼミ成果発表)

※産学連携先 株式会社SBSメディアビジョン様、バックル様、ビッグストーン様、株式会社杏林堂薬局様

大石 萌絵、榎原 裕花、清水 麻衣、野呂 由莉菜

(映像・音響デザイン学科1年)

<3> 「子供向けリズム体感ゲームの開発」 (卒業研究発表)

※子ども心理学科・保育園「キッズハウスひかり」とのコラボ
大石 真也、鈴木 祥高(ゲーム応用学科2年)

<4> 「学生による広報支援コンテンツの制作」 (卒業研究発表)

※2学科それぞれの学生と本学企画広報室とのコラボ

今野 向陽(ゲーム応用学科2年)

細田 侑里(映像・音響デザイン学科2年)

○ご出席頂いた企業の方々からの各グループに対するコメント

[一部抜粋]

<1>

- ・1号機からの改良・工夫が良くできていた。クランク機構の設計がしっかりなされている。
- ・プレゼンの構成が大変良い。楽しく拝見した。
- ・数々の失敗を糧にして改善できている。高く評価したい。
- ・次の開発では是非コンセプトから始めてほしい。
- ・プレゼン内で映像をうまく活用できていた。映像デザインコースとのコラボも視野に入れてみては?

<2>

- ・絵コンテがよく描けている。
- ・多くの企業にグループメンバーが直接問い合わせた経験は貴重。
- ・プレゼン態度に余裕が感じられた。
- ・提案力が凄い。1年生なのに大したものだ。
- ・CMの完成とオンエアが楽しみ。チャレンジ精神が素晴らしい。

<3>

- ・幼児向けという着眼点が良い。またその分野の専門家に対するヒアリングを行ったことを高く評価したい。
- ・クライアントに対するヒアリングを更に行い、ブラッシュアップしてほしい。
- ・限られた時間の中での開発は大変だったと思う。
- ・聞き取りやすいプレゼンだ。
- ・幼児教育アプリ市場を参考にするとよい。

<4>

- ・母校をPRしたい、という志が良い
- ・一つ一つとても丁寧に作り込まれている。
- ・雑誌「Can!」の完成度は非常に高い。サイトの最終完成形を見たかった。
- ・学生の目線から学校の良さをPRするというのはとても良いアプローチだ。
- ・是非後輩に学生目線の情報発信を引き継いでほしい。



☆3Dプリンタを活用したアーム型ロボットの設計開発

ロボット創造学科1年 外山 浩介

今回私たちはロボット創造学科1年の3人でアーム型ロボットの設計・開発を行いました。まずは入学後半年間かけて、試作1号機を製作しました。この1号機はあまり設計には拘らず、3Dプリンタでの外装の製作やモーターの制御プログラムなどの試しとして行いました。そしてプロトタイプング手法のように、この1号機を元に、設計部分での欠点を洗い出し、2号機の製作に取り掛かりました。2号機は欠点を解消するために平行クランク機構という新たな仕組みを取り入れ、無事に製作を終えることができ、企業の方の前で発表することもできました。企業の方の前で発表をする機会が初めてだったため、とても緊張しましたが、SSBソリューションの池谷様からお褒めの言葉を頂きました。来年度は、今回身につけた技術に加え、センサーでの制御も実装したいと思います。また、今回はグループ製作だったため、個人製作もしてみたいと思っています。



☆デザインの大切さ ～お客様ありきのシステム制作～

ゲーム応用学科2年 今野 向陽

私は映像・音響デザイン学科の細田侑里さんと一緒に「学生による企画広報支援～学校情報誌&学生ポートフォリオサイト制作～」というテーマで卒業研究を実施しました。こちらは、本校が抱えている既存の企画広報面の問題の解決策を考え、提示するという流れで行っています。

この研究では、最終的に「現役学生の声が一番近い形にしてお届けすることができる情報誌の制作」と「在学生・卒業生がどんな作品を作ってきたのかを知ることができるポートフォリオ掲載サイトの制作」をしました。Webサイト制作をしたことがなかったため、とても苦労しましたが、新しい知識・技術を学ぶいい機会となりました。

また、情報誌を制作する上で、インタビュー形式のヒアリングを行わせてもらい、相手の良さを引き出すことの難しさを知ることができました。

さらに、今回はデザイン面にとても気を付けました。デザインという観点は通常の授業ではあまり気にしなかったことだったので、「システムを使うお客様がいる」ということを強く

考えさせられました。私はシステム運用を行う会社に就職しますが、運用しているシステムの向こうには必ずお客様がいるということを忘れずに、働いていきたいと思っています。広報の先生方、様々なご協力をしていただきありがとうございます。

